

教授

原 頼子

■ 学歴

- 2011年 久留米大学大学院医学研究科博士課程 修了

■ 学位

- 2011年 博士（医学）

■ 研究分野

- 慢性期看護学
- がん看護学
-

■ 研究キーワード

- 糖尿病患者の QOL
- 自己管理行動
- がん治療中の糖尿病患者

■ 研究課題

- がんを併存する糖尿病患者は、優先されるがんの治療薬や副作用によって、血糖コントロールが困難になる体験をする、その時にどのような思いを抱くのか、そのなかで、どのような対処をしているのかを知り、患者の自己効力感を低下させない支援方法について検討する。
-

■ 担当授業科目

※該当なし（2024年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2024年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年4月～現在に至る	日本糖尿病教育・看護学会	学会誌査読委員（2018年～2022年）

2.	2004年4月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.	2008年4月～現在に至る	日本糖尿病学会	
4.	2010年4月～現在に至る	日本がん看護学会	評議員（2013年～2016年） 学会誌査読員（2016年～2018年）
5.	2010年4月～現在に至る	日本緩和医療学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2023.2	緩和ケア病 棟看護師の ターミナル ケア態度に 影響する要 因-看護師の レジリエン スに着目し た分析	共同発表	第 37 回日本が ん看護学会学術 集会	① 緩和ケア病棟看護師のレジリエンス 得点は高く、終末期看護に影響して いた ② 共同発表者：太郎良純香、原 頼子 ③ 第 37 回日本がん看護学科抄録集 終末期看護（P ）
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者	交付決定額

			○代表者()内は学外者	(単位:円)
1.	喉頭全摘出者の退院後のQOL向上を目指す継続看護チームの介入: RCT による縦断調査	科学研究費	(○小竹久実子、鈴鴨よしみ、甲斐 一郎、岩永 和代、高橋 綾、羽場 香織、栗田 麻美、石橋 曜子)、原 頼子、(新 裕紀子、太田 一郎、上村 裕和)	18,460,000 円
2.	高齢糖尿病患者における座位行動改善への介入方法の開発と検証	科学研究費	(○前野里子、藤田君支)、原 頼子	4,290,000 円
3.	腹膜透析を受ける高齢者と家族を支えるテレナーシングシステムの構築と検証	科学研究費	(○桐明あゆみ)、原 頼子、(河原田康貴、姫野深雪)	4,680,000 円

(2) 個人研究

	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
1.	がん治療中の糖尿病患者のセルフケアを支援する領域間連携システムの構築	科学研究費	2,860,000 円	
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2008年～2023年	福岡県糖尿病療養指導士協会養成講習会	認定委員
2.	2015年～2022年	市民公開講座「グリーンケア」	講師
3.			

■ 学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

※該当なし(2024年度入職)